




論文審査結果の要旨

| | | | |
|------|-------------|---|-------|
| 報告番号 | 甲 薬 第 223 号 | 氏 名 | 柴田 高洋 |
| 審査委員 | 主 査 | 川 添 和 義  | |
| | 副 査 | 山 内 あ い 子  | |
| | 副 査 | 石 澤 啓 介  | |

学位論文題目

ATP 検査法を用いた新規感染源スクリーニング法の考察と MRSA 分布における実態調査からみる来院者の影響についての検討

審査結果の要旨

院内感染症は全国で多数報告される現状にあつて、そのリスクを少しでも減らすことは大変重要な課題である。本論文は、感染源の検出法として時間を要する培養法のデメリットを補うために ATP 拭き取り調査に注目した。ATP 拭き取り調査は結果判定に 10 秒程度しか要さないというメリットがある。調査対象場所は病棟トイレとし、ATP 拭き取り調査の結果と培養法による関係を調べた。結果、採取場所 114 例において、全て ATP 量が 350RLU 以上を示し、その 85%において細菌数が 10CFU 以上を示した。本培養法では細菌が検出されなかった箇所でも、食物残渣などによる ATP の存在を考慮すると、細菌による汚染リスクが高い箇所としてみなすことができる。培養法と ATP 拭き取り検査を補填し合うことでより良い感染源スクリーニングが可能であることが示された。

一方、MRSA の実態調査において、病院環境由来の MRSA(HA-MRSA)、市中環境由来の MRSA(CA-MRSA)について調査を行い、来院者による影響を考察した。また高い毒性を持つ PVL 陽性 MRSA についても調査を行った。対象場所は小児科を中心とした外来診療棟、小児科入院病棟のプレイルームである。調査の結果、外来診療棟において、検出された MRSA のうち実に 85%が CA-MRSA という結果であった。これは院内の環境が市中環境に非常に近いことを示しており、また PVL 陽性 MRSA も小児科の入院病棟にある遊具から 4 株検出された。この情報は ICT で報告され、遊具の撤去などの対応策が取られた。

以上の結果は院内感染の重要性を訴えるエビデンスに繋がるものであり、その臨床薬学的意義は大きく学位授与に値すると判断した。